

1 市町名 ときがわ町

2 課題をもとにした仮説

- すべての教科の基礎である国語の読解力育成を研究すれば、学力が向上するであろう。
- 児童一人一人の課題に寄りそって指導すれば、学力が向上するであろう。

3 効果的な取組の例

(1) 市町教育委員会における主な取組例

① 具体的な取組例

○ 学力向上推委員会の充実

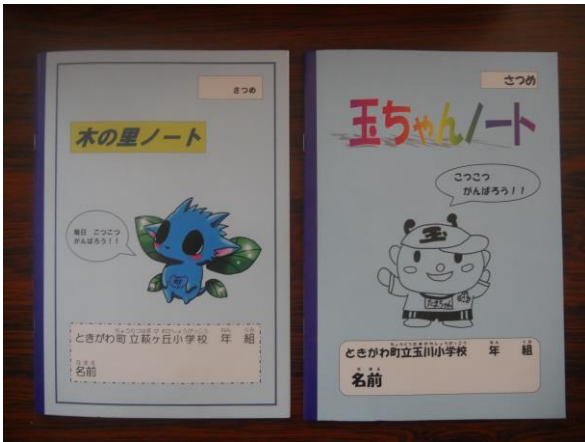
- コバトンのびのびシートの活用研修の実施

各校でのコバトンのびのびシートの活用状況を報告し合い、学びあうことで、良い活用方法を共有した。最終的に、「教職員でコバトンのびのびシートをもとによりよい指導方法について話し合いをし、それを学校全体で共有することが大切である」ことを確認した。

○ 学力向上期間の設定

- 教育委員会として、町の学力向上期間を設定した。1 2月下旬～5月中旬まで約5か月間である。この期間は今年度の学び残しがないように、もう一度児童一人一人の学習状況を確認し、来年度をスムーズに迎え、滑り出していくことを目的としている。

教育委員会が、各校の実情に合わせた期間内の取組報告を随時受け、実施内容を確認している。



②取組の成果と課題

- コバトンのびのびシートを活用することで、各校からは、「具体的に児童生徒一人一人にどんな声かけや指導をすればよいのか明確になった」という意見が多く寄せられた。今後も、研修を重ね、この取組をしっかりと継続していくことが課題である。
- 学力向上期間を設定することで、教職員が、今年度中に身に付けさせなければならない内容を再確認することができた。学校全体で、学力向上期間を意識することができるよう、今後も全教職員に積極的に啓発していかねばならないと感じている。

(2) 重点校における主な取組例

①具体的な取組例

○授業研究会の充実

- ・授業の参観方法と研究協議の工夫

研究授業で、クラスの学力階層を3つに分け、教員も3階層の担当に分かれて、担当の階層の児童たちを45分間観察する。



授業後は、3グループの観察について発表し合い、「全員が力をつけることができるように授業改善を行う視点」で研究協議を行った。



町の国語部会、学力向上推進委員会で、各校の担当に重点校の教員が説明を行い、各校でも取り組んでもらった。

- ・国語での「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を取り入れた授業改善
重点校では、めあて・まとめ・ふりかえりを意識して授業を行うことに力を入れている。
- ・自主学習ノートの充実
重点校では、漠然と行わせるのではなく、「なぜ自分がその自主学習内容を行うのか」を考えさせることに取り組んだ。復習の目的、予習の目的を考えさせることで、家庭学習の意味を理解させていく。

②取組の成果と課題

- 階層を3つに分けた授業研究では、全員の児童が力をつけるために授業を研究することができた。しかし、課題も多く、さらなる研究を進め、授業改善を進める必要がある。
- 「めあて・まとめ・ふりかえり」をしっかりと意識することにより、教師が「この時間に子供たちにどんな力をつけるのか」ということをしっかりと意識できた。
- 自主学習ノートでは、なかなか自分一人では学習を進められない児童もおり、その児童たちへの自主学習ノート指導方法の研究が今後必要である。